

吉部の夢プラン

第二章



平成29年2月

吉部校区コミュニティ推進協議会

夢ゆめクラブ吉部の郷

目次

1 現況と課題

- (1) 吉部校区の概況 1
- (2) 現状と課題 1

2 地域づくり計画

- (1) 「吉部の夢プラン」について 2
- (2) 「吉部の夢プラン」活動の成果 3
- (3) 「吉部の夢プラン第二章」 ～新たなステップへ～ 4

3 推進体制 5

1 現況と課題

(1) 吉部校区の概況

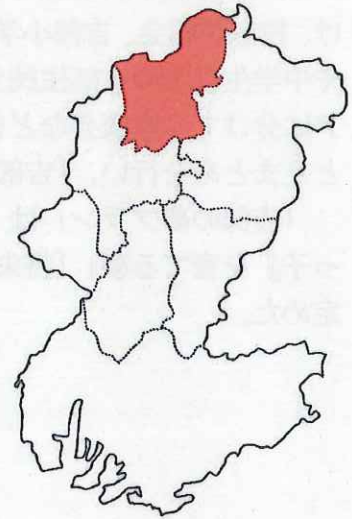
吉部校区は、宇部市の北部に位置し、美祢市、山陽小野田市に隣接し、広さは30.32 km²である。宇部市の最高峰「荒滝山（標高459m）」をはじめとする山々が連なり、山間に広がる田園風景は、古き良き時代を思わせる癒しの空間となっている。

校区内の人口は385世帯、795人で、65歳以上の人数が391人、高齢化率は約49.2%となっている。※

稲作を中心とした農業が活発で、郷土料理として「ゆうれい寿司」と米粉を使用した「竿まんじゅう」が、宇部市の特産品として、各種のイベントで販売されている。

地域の資源として、荒滝山のほか内立山や吉部の大岩郷、夫婦岩がある。吉部八幡宮は弘永元年（1261年）に創建され、3年に1度、地域住民による村芝居が奉納されている。

※2016(平成28)年10月1日現在



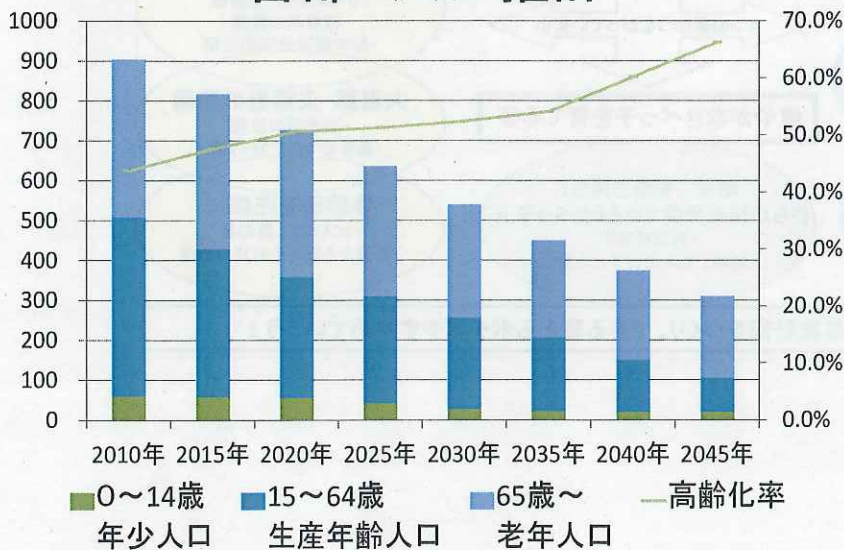
(2) 現状と課題

人口の推移を見ると、過去5年間で約100人減少しており、今後も過疎化が進むと予想される。過疎化の進展に伴い空き家が増加しており、その有効活用が課題である。

また今後も、高齢化率は上昇すると思われる、地域における高齢者の見守り体制のあり方を検討する必要がある。中山間地域であり、公共交通機関が不十分であり、通学や医療機関への受診に必要な移動手段の確保が課題である。

地域活性化を推進するためには、若い世代が地域活動を担えるような体制づくりも課題といえる。

吉部 人口推計



2 地域づくり計画

(1)「吉部の夢プラン」について

平成19年度に山口県中山間地域集落ネットワーク形成支援事業モデル地区の認定を受け、校区説明会、吉部小学校児童による「吉部の夢プラン」の絵作成、女性限定の座談会、^{THV}や中学生以上の吉部住民全員を対象にした住民アンケートの実施、吉部校区を4つのエリアに分けての座談会などを経て、平成21年1月に発足した「吉部の夢を考える会」によってとりまとめを行い、「吉部の夢プラン」が平成21年3月に策定された。

「吉部の夢プラン」は「人でにぎわう夢」「地域資源から生まれる夢」「健やかな『吉部っ子』を育てる夢」「将来を見すえた夢」の4つを柱とし、それぞれに具体的な活動内容を定めた。



(2) 「吉部の夢プラン」活動の成果

柱	具体的な活動	成果
人 でにぎわう夢	人が集まる「イベント」の開催 ・県下有数のホテルを利用	平成21年5月に第1回ほたる祭り開催。以降毎年開催し、ホテル籠づくり体験やホテル鑑賞ルートの案内などを行っており、多くの人で賑わっている。現在はバスツアーも訪れており、平成28年度は1600人の来場があった。
	特産品を活かした取り組み ・ゆうれい寿司、竿まんじゅう ・子どもの考える第3の郷土料理 ・吉部米のブランド化 ・子どもの夢プラン実現へ!	・ゆうれい寿司、竿まんじゅうを市内外のイベントで販売し、体験ワークショップにも取り組んでいる。 ・米まんじゅう「吉部の里」はうべ元気ブランドに認証され、宇部市内でも広く知られるようになった。 ・平成23年度に吉部のお米が「全国米・食味分析鑑定コンクール:国際大会」において山口県代表に選ばれ、特別優秀賞を受賞した。
地域資源から生まれる夢	トンネルを有効利用 ・ワインセラーを整備 ・桜並木の整備 ・船木鉄道史跡の活用	・旧船木鉄道大棚トンネルは「瀬戸内オーリーブ基金」や「宇部市がんばる地域支援助成金」などの助成を受けながら、桜並木の植栽や地盤改良の整備を進めてきた。 現在はトンネルウォーキングやトンネルコンサートが開催されるなど、地域資源として欠かせない存在となっており、交流人口の増加に大きな役割を果たしている。
	大岩郷・夫婦岩の整備 ・遊歩道の整備 ・名所をつなぐウォークラリー	・旧船木鉄道大棚トンネルを経由して、小学校と大岩郷をつなぐウォーキングコースが平成27年度に整備された。 ・ホテルの鑑賞コースも2コース整備されている。
	休耕田を花畑に ・コスモス、菜の花 ・県道から見える目立つ場所	・耕作放棄地からコスモス畑へ当初は4か所整備したが、現在は2か所で取り組んでいる。
健やかなきべつ子 を育てる夢	地域に愛着を持ち、自らが情報発信できる「きべつ子」に ・吉部探検隊 ・地域ぐるみでの子ども育成	・学校、地域、ふれあいセンター、放課後子ども教室が連携しながら中心に住民主体で積極的に様々な企画で子どもの育成支援活動を進めている。
将来を見すえた夢	過疎高齢地域への支援 ・ボランティア支援 ・仕組みや組織づくり 若い世代の家族を集める仕組み ・報償金制度・情報発信など	取り組みなし

*平成24年度やまぐち県民活動パワーアップ賞を受賞（県知事表彰）

(3)「吉部の夢プラン第二章」 ～新たなステップへ～

「吉部の夢プラン」策定から6年が経過して多くの夢が実現されており、地域を取り巻く状況も変化していることから、平成28年度に夢プランの見直しを検討した。

見直しの中で、新たに提案された意見・企画は以下のとおりである。

人でにぎわう夢

- ・イベント時に収益を得る方法を考える
- ・イベントや桜やコスモスの開花情報が市民に伝わるようにする
- ・旧吉部小学校を地域活性化のために利活用する

地域資源から生まれる夢

- ・さくら並木のレベルアップ
(皇帝ダリアやヒマワリを植え、四季折々の花を楽しめるようにする)
- ・トンネルの紅葉を増やす
- ・ウォークラリーコースの活用
- ・コスモス畑の取り組みをレベルアップ (例 花摘み体験)
- ・マラソンコースに菜の花を植える

健やかなきべっ子を育てる夢

- ・特認校制度を活用する (児童数の増を目指して)
- ・「吉部再発見」の取り組み

将来を見すえた夢

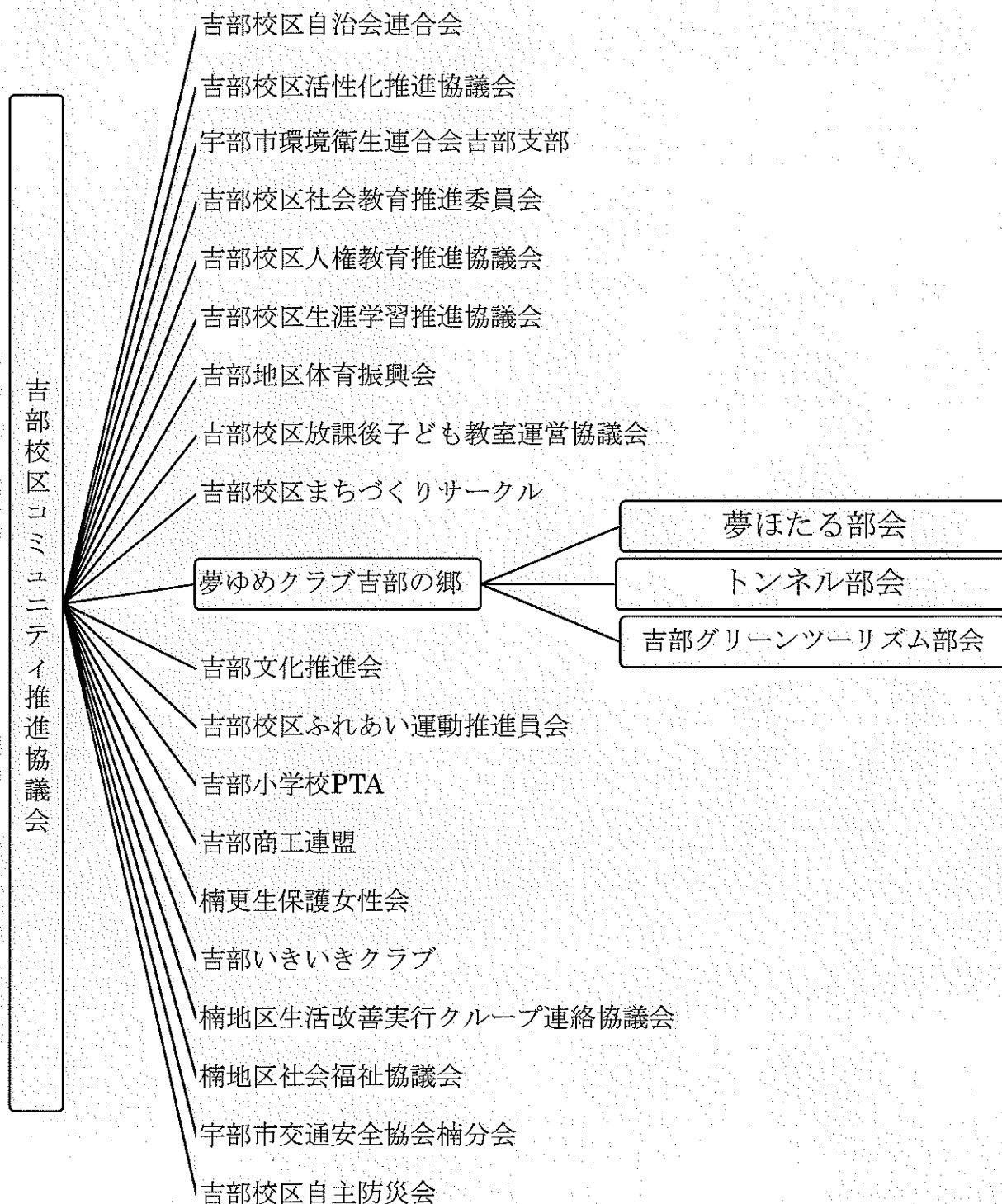
- ・有償ボランティアについて検討する (安否確認や買物代行など)
- ・独居老人が集まれる機会をつくる
- ・住宅団地に移住してきた方の意見を参考にする



3 推進体制

「吉部の夢プラン」を作成するにあたり発足した「吉部の夢を考える会」が「夢プラン」を実現するための実行部隊として、「夢ゆめクラブ吉部の郷」が平成21年6月に発足した。現在まで、校区コミュニティ団体と「夢ゆめクラブ吉部の郷」が協働体制で活動を継続している。

今後も、引き続き校区コミュニティ団体と「夢ゆめクラブ吉部の郷」を中心に活動に取り組んでいく。



吉部の夢へ（第二章）

人でにぎわう夢

定期的な「市」の開催

- ・旧吉部小学校の利活用
- ・収益を得る方策を考える

特産品を活かした取り組み

- ・ゆうれい寿司、竿まんじゅう
- ・子どもの考えた第3の郷土料理
- ・おいしい吉部の米をブランド化



人が集まる

「イベント」の開催

- ・県下有数のホテルを利用

情報発信への取り組み

- ・イベント情報など地域の魅力を広く情報発信する

将来を見すえた夢

過疎高齢地域への支援

- ・有償ボランティアの取り組み
- ・独居老人が集える機会をつくる

若い世代の家族を集める仕組み

- ・住宅団地に移住してきた方の意見を参考にした取り組み



地域資源から生まれる夢

トンネルを有効利用

- ・桜並木の整備
- ・紅葉を増やす
- ・四季折々の花を植える

大岩郷・夫婦岩の整備

- ・遊歩道の整備
- ・名所をつなぐウォークラリー

休耕田を花畑に

- ・コスモス、菜の花
- ・県道から見える目立つ場所
- ・体験イベントの開催

健やかなきべっ子を育てる夢

地域に愛着を持ち、自らが情報発信できる「きべっ子」に

- ・地域ぐるみでの子ども育成
- ・特認校制度などの活用
- ・吉部再発見の取り組み

4つの夢それぞれに年次計画をつくり、人の輪を広げながらできる事からポチポチすすめていこう！